

学校教育目標「志に生きる」 立志(やる気)・真心(おもいやり)・強健(たくましさ)



久喜中だより



「よさ」を認め「可能性」を伸ばす 久喜中学校

令和6年4月号(令和6年4月8日発行)

全校生徒数483名

新年度 人間として成長しよう

校長 木村 信之



新しい学年心機一転頑張ろう！だが、新しい学校で不安だ。新しい学級で不安だ。話せる人はいるだろうか…。新年度最初の不安は新しい環境に、コミュニケーションをとれる人がいるか…ではないだろうか。

「人は、人によって支えられ、人の間で人間として磨かれていく」多感な時代に、どんな人に出会い、どんな経験をするかはとても大事だ。これからの時代、異なる立場や言語、文化、価値観…いろいろな境目を越え、多様な「人」と対話し、協働する力が求められる。

人間は「人(ひと)」の「間(あいだ)」にいないと元気になる。現実社会だけでなくネット上でも人々がかかわりを求めるのもそういう理由だろう。そもそも「人間」という字は「人(ひと)」の「間(あいだ)」と書く。人間という字が人の間と書くように人の間にいないと人間らしい生活が送れない。人の間にいないと人としては「孤立」してしまい誰ともコミュニケーションを取ることなくなる。ストレスがない代わりに楽しさや嬉しさもなく、コミュニケーションも関わりも愛もなくなる。元気ももちろんなくなる。

人間は常に他の誰かから元気をもらい、自分の元気を誰かにプレゼントしている。自分では無意識であって気に留めていないだろうが、おしゃべりをしたり、助け合ったり、相談に乗ったりするだけで、いつの間にか元気を誰かにプレゼントできている。単純に誰かと一緒にいるだけでも、お互いに「元気」という影響を与え合っているのだ。お互いの存在を感じるだけで、何か安心感を得ている。しかし、自分一人だけだとどうだろう。誰かと話したくても話し相手がいないので話すことができない。相談したくても、自分一人だと相談する相手もいない。誰かから元気をもらうこともなく、笑い合うこともできず、感情も乏しくなってしまう。

人は、人との間にいて初めて人間らしく生きていける。一人でいると寂しくて不安だが、誰かと一緒にいると不安が和らぎ安心できる。人の間にいるから話ができて、相談ができ、笑いあい、楽しさを共有することができる。誰かと一緒にいるだけでお互いに気分を高め合っているのだ。人の間にいることは、元気になるために重要なことなのだ。

私たち人間同士は不完全なるがゆえに互いに傷つき、それによって成長する。私たちが傷つきながらも、癒されていくのは、結局は他者とのかかわりの中でこそなのだ。人間関係で傷ついた私たちは、ごく自然に人間関係の中で癒されていく。傷つけられながら癒されるということを人間関係の中でくり返しながらか、こころは健やかに発達し、人間として成長していくのだ。不安なのはみな同じ、恐れずに、人の間で、喜びも悲しみも共に感じ、仲間とともに成長しよう。それぞれのゴールに向けて。

《地域・保護者の皆様へ》

本校では、学校教育目標「志に生きる～立志・真心・強健～」を教育活動の中核にすえ、目指す学校像を『『よさ』を認め『可能性』伸ばす久喜中学校』とし、全教職員が生徒の心に火を灯すことをとおして、調和のとれた「総合的な人間力」を育成してまいります。保護者や地域の皆様におかれましては、本年度も御支援を賜りますようお願いいたします。

《校長経営方針抜粋》 教職員スローガン「信じてやり抜く～子供の心に火をつけろ！～」

- 1 生徒に指導することは教師も実行します。(元気な挨拶 整理整頓 時間厳守 人の話を聞く姿勢)
- 2 総合的な学習の時間をリニューアルし、地域の担い手となる新時代を生き抜く生徒を育てます。
- 3 特別活動と「ポプラ賞」の充実を図り、生徒の「よさ」と「可能性」を生かし、伸ばします。
- 4 「さわやか学習室」と新部活動「まな部」を新たに設置し、生徒の多様性に対応します。

★学校だよりは、区長様や班長様の御協力を得て、本年度も校区全御家庭へ回覧させていただいております。御協力に心から感謝申し上げます。(本年度も本校親善大使がお届けします)

★2019年9月に立ち上がったHP、4月7日現在、**1年間で103,907アクセス**をいただき、**計338,825アクセス**となっています。毎日約300のアクセスをいただいています。学校だよりは紙面に限りがございますので、毎日更新されるホームページで教育活動を紹介しています。ぜひご覧ください。 **HPはこちらから⇒**

